法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

なし

(発行年 / Year)
1910

第四章　地上權

（理由）本章ニ於テ規定スル地上權ハ既成法典ニ規定セル地上權トハ大ニ異ナルモノナリ既成法典ニ於テハ地上權ヲ完全ノ所有權ヲ以テ建物又ハ竹木ヲ占有スルノ權利ナリトシ恰モ之ヲ所有權ノ一種トセルカ如シト雖モ本案ニ於テハ地上權ヲ以テ土地ノ使用權トシタルナリ其普通ノ使用權ト異ナル所ハ此權利ハ唯工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メニノミ存スルノ點ニアリ詳細ノ理由ニ至テハ尚第二百六十四條ヲ說明スル際ニ陳述スヘシ

既成法典財產編第二部第三章第三節第二款ニハ地上權ヲ規定シ總テ之ヲ八ケ條トスレトモ其中不用ト認ムヘキ條項亦尠ナカラサルヲ以テ此等ノモノハ本案ニ於テ悉ク之ヲ削除セリ左ニ其理由ヲ示サン

一同編第百七十二條ニ地上權設定行爲ノ基本方式及ヒ公示ハ不動產讓渡ノ一般ノ規則ニ從フトスレトモ本案ハ既ニ物權ノ總則ニ於テ一般ニ物權ノ設定及ヒ其移轉ノ方法ヲ規定シ且不動產ノ公示方法ニ付テモ亦適當ノ規定ヲ設ケタルヲ以テ玆ニ地上權ニ關シテ之ヲ再言スルノ要ナシト信シテ之ヲ削除セリ

二同第百七十四條ニハ設定行爲ヲ以テ建物又ハ竹木ノ周邊ノ地面ヲ明示セサル際ニ地上權ノ從トシテ當然之ニ屬スヘキ地面ノ廣狹ニ關シテ細密ノ規定ヲ爲セトモ此等ハ權利ノ設定ニ關スル一般ノ場合ト等シク總テ地上權ノ設定行爲ノ解釋ニ一任シテ可ナルモノニシテ特ニ明文ヲ以テ一定スルノ要ナシト信シテ之ヲ削除セリ

訂正印刷ノ年

三第百七十八條ノ規定ハ當然民法施行條例ニ掲クヘキモノト信スルヲ以テ之レ亦削除セリ

第二百六十五條

（理由）既成法典ハ佛國一部ノ學者ノ説ニ從ヒ地上權ヲ以テ建物又ハ竹木ノ所有權ナリトセリ地上權ニテレ果シテ所有權ノ一種ナリトセハ宜シク之ヲ所有權ノ中ニ規定スヘク決シテ特種ノ物權ヲ以テ待ツヘキニアラス且既成法典ニ於テハ賃借人ト雖モ賃貸借ノ存續期間ハ借地ノ上ニ存スル建物又ハ竹木ヲ完全ニ所有シ得ルモノト規定シ而モテ我國ノ慣習モ亦之ヲ認ムルカ故ニ若シ右ノ既成法典ノ定義ニ從フトキハ賃借權モ亦地上權ノ一種ナリト言ハサルヲ得サルニ至ラン殊ニ建物又ハ竹木ハ完全ノ所有權ヲ以テ占有スル權利ナリト曰ヒテ建物又ハ竹木ノ所有者ハ其所有物ヲ占有スルコトヲ得ルト云ヘルカ如キ文字ヲ排列シテ當然言フヲ待メサルコトヲ明揭スルハ法典ノ體裁上亦不可ナル所アルニ似タリ之ヲ解シテ地上權ハ建物又ハ竹木ヲ完全ニ所有スルカ爲メニ他人ノ土地ヲ占有スル權利ナリトスルトキハ其意稍本案ニ近似レ來リテ理論ノ正ヲ得ヘキカナレトモ原文ノ如キ字句ニテハ到底此ノ如キ解釋ヲ爲スコトヲ得ス是レ本案ニ於テ既成法典ノ定義ヲ採用セサル所以ナリ

外國ノ法律ヲ見ルニ澳國民法ハ土地ノ所有權ヲ分ケテ地上權者ノ有ニ屬スル部分ト地盤ノ所有者ニ屬スル部分トヲ區別セリ是レ我國ノ慣習ニ反ス獨逸民法草案及ヒ索遜民法ハ地上權ヲ以テ土地ノ上下ニ建設物ヲ有スル權利ナリトセリ單ニ建設物ヲ有スルニ限レルヲ以テ其土地ノ上ニ竹木ヲ有スルヲ得サルコトトナリ亦我國ノ慣習ニ反ス普遍西國法ハ地上權者ハ他人ノ土地ノ上ニ有スル建物及ヒ樹木ヲ所有者ノ如ク自由ニ處分スルコトヲ得トセリ建物及ヒ樹木ト曰ヘルヲ以テ既成法典ニ於ケルト等シク池沼其他ノ工作物ハ之ヲ包含セサルコトトナリ狹隘ニ失スルノ弊アリ殊ニ建物又ハ竹木ヲ所有者ノ如ク自由ニ處分スルコトヲ得ト曰ヘルニヨリ地上權者自ラ建物又ハ樹木ノ所有者ニアラス只所有者ノ如クニ之ヲ處分シ得ルノミナリトセルモノニシテ決シテ完全ノ規定ト云フヲ得ス白國民法草案ハ地上權ハ所有權ノ支分權トシテ他人ノ土地ノ上ニ建築物又ハ樹木ヲ有スル權利ナリト曰ヘリ建築物又ハ樹木トイヘルヲ以テ其中ニ池沼其他ノ工作物ヲ包含セシテ狹隘ニ失ス且單ニ地上權ハ所有權ノ支分權（Démembrement de la propriété）ナリトイフモ支分權タルヤ否ヤヲ論スルハ寧ロ學説ニ屬スヘキモノナルノミナラス恰モ其支分權ノ性質如何ヲ知ルノ要アルナリ殊ニ支分權トシテ建物又ハ樹木ヲ有スルト謂フニ至テハ頗ル不明了ノ點ナキ能ハス其説明中ニ地上權者ハ建物又ハ樹木ノ所有者ニアラス唯所有者ニ類スルノ權利ヲ有スルモノナリト謂フモ未タ地上權ノ性質ヲ明カニセス到底本案ノ模範トスヘキ法文ニアラス又蘭國民法及ヒ白國現行法ニ於テハ地上權ハ他人ノ土地ノ上ニ建物工作物又ハ樹木ヲ有スル權利ナリト曰ヒ前記ノ諸法律ニ比シテハ大ニ優レル所アルモ未タ土地ヲ使用スル權利ナルコトヲ明言セス

之ヲ要スルニ既成法典及ヒ外國法律ノ規定ハ或ハ我國ノ慣習ニ合セサル所多ク或ハ其文字ニ穩當ヲ缺ク所アルヲ以テ例レモ本案ニ採用スルコトヲ得サルナリ抑地上權ノ名ハ從來曾テ我國ニ無キ所ナリト雖モ其實ハ果竟宅地林地等ノ借主ノ有スル權利ニ過キスシテ此等ノ借主ハ借地料ヲ拂フト否ト

ヲ問ハス權利ノ存續期間ハ土地ノ上ニ存スル工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メ其土地ヲ使用スルコトヲ得ルモノトセルコト我國從來ノ慣習ナルカ如キヲ以テ本案ハ此慣習ヲ採リ地上權者ハ他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メ其土地ヲ使用スル權利ヲ有スルモノトシタルナリ而シテ其永小作權ト異ナル點ハ永小作權ハ耕作又ハ牧畜ノ爲メニ存スル使用及ヒ收益ノ權ナルモ地上權ハ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メニ存スル使用權ナリ二者ノ目的トスル所モ相異ナレハ從テ權利ノ範圍ニ付テモ亦自ラ廣狹ノ差ナキ能ハス

第三百六十六條

（理由）本條ハ既成法典財産編第百七十二條ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ左ニ其要點ヲ列擧セン

一、原文ニハ土地ノ上ニ建物又ハ樹木ノ既ニ存セル場合ト新タニ之ヲ築栽スル場合トヲ區別シ甲ハ地上權ニシテ乙ハ賃借權ナリトシ乙ノ場合ニ於テ建物ヲ築造シ又ハ樹木ヲ栽植スルトキハ賃借權怠チ變シテ地上權ト爲ルモノトセルハ草案ノ說明ニ依リテ明カナルノミナラス原文第二項ニ賃借ノ文字ヲ用ユルヲ見テモ亦此主意タルヲ知ルヘキナリ是レ既成法典ニ於テ地上權ヲ建物又ハ樹木ノ所有權トシタルノ結果ニシテ卽チ未タ建物又ハ樹木ノナキニ之ヲ所有スル地上權ノ生存スヘキ理ナシトノ事由ニ基クモノナリ然レトモ本案ニ於テハ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メ土地ヲ使用スル權利トシタルヲ以テ其設定行爲ノ初メニ建物又ハ樹木等ノ既ニ存スルトヲハ後ニ之ヲ築造栽植スルトヲ區別スルノ必要ナク唯之ヲ築造栽植セサルニ於テハ地上權ハ實際ノ活動ヲ爲サスト謂フマテノ事ナルヲ以テ原文ノ如キ區別ハ全ク之ヲ廢セリ

二、原文ニハ土地ノ面積ニ應シテ土地ノ所有者ニ定規ノ納額ヲ拂フヘキトキハ云々ト曰ヘルモ土地ノ面積ニ應スルト否トハ敢テ之ヲ問フコトヲ要セス唯定期ニ金額其他ノ物ヲ拂フヘキ否トヲ區別スヘキノミ蓋シ普通賃貸借又ハ永貸借ニ於テモ借賃ハ必ラシモ土地ノ面積ニ應シテ之ヲ拂フヘキコトヲ必要トセサルナリ

三、原文ノ納額ナル文字ハ（Redevance）ナル佛語ヲ譯シタルモノナランカナレトモ本邦ニハ從來地代ナル語アルヲ以テ特ニ新奇ナル熟語ヲ玆ニ發明スルノ要ナク殊ニ地代ナル語ニ由リテ地上權ハ從來ノ借地人ノ權利ナルコトヲ知ラシムルノ利アルヲ以テ本案ニ於テハ納額ヲ改メテ地代トナシタリ

四、原文ニハ地上權者カ納額ヲ拂フ可キ場合ニ於テハ其權利義務ニ付テハ賃貸借ニ關スル規則ニ從フヘキモノトセルモ若シ此ノ如クスルトキハ地上權ノ實質ハ殆ト賃借權ト同一ノモノトナリ從テ一ヲ物權トシ他ヲ人權トシタルノ主意ニモ反スル嫌アルヲ以テ本案ニ於テハ地上權ニハ永小作權ニ關スル第二百七十四條乃至第二百七十六條ノ規定ヲ準用シ其他地代ニ付テハ賃貸借ノ規定ニ從フヘキモノトセリ

五、原文ニハ通常賃貸借ノ規則ニ從フヘキモノトセルモ地上權ハ通常ノ賃借權ニリモ寧ロ永小作權ニ近キカ故ニ永小作權ノ規則ヲ之ニ適用スルヲ可ナリトス最終版ノ草案ニハ賃貸借（Bail）ト言ヒテ其中ニハ永貸借ヲモ包含セシムルノ意ナルモ單ニ賃貸借トイフトキハ世人多クハ通常ノ賃貸借ヲ指スモノト

解スヘキヲ以テ本案ニ於テハ特ニ地上權ニハ主トシテ永小作權ノ規定ヲ準用スヘキコトヲ明カニシ唯借賃ニ付テハ永小作權モ亦賃借權ノ規定ニ從フヘキモノナルカ故ニ地代ニ付テハ自ラ賃貸借ノ規定ヲ適用スヘキモノトシタルナリ(白國民法草案ニハ地上權ニハ永借權ノ規定ヲ適用スヘキコトヲ言ヘリ)

六、原文第一項ノ終リニ繼續期間ノコトヲ言ヘルモ既ニ地代ニ付テノミ賃貸借ノ規定ヲ適用スルコトトセル以上ハ繼續期間ハ本條ノ適用ノ範圍外ナルヲ以テ原文第一項ノ末文ハ之ヲ削除セリ

第三百六十七條

(理由)本條ハ既成法典財產編第百七十五條ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ原文ニハ本條ノ適用ヲ地上權設定後ニ築造シタル建物又ハ栽植シタル樹木ニ限レルモ此制限ハ決シテ之ヲ爲スコトヲ要セス地上權設定以前ヨリ既ニ存セル建物又ハ樹木ニ關シテモ亦宜シク本條ヲ適用スヘキモノナルヲ以テ本案ニ於テハ設定ノ前後ニ區別ヲ附セスシテ汎ク所有權ノ限界ニ關スル規定ヲ地上權ニモ準用スルコトトシタリ獨リ地上權設定前ニ爲シタル工事ハ總テ土地ノ所有者カ爲シタルモノト推定スヘキヲ至當トスルヲ以テ此場合ニ付キ但書ヲ加ヘ以テ本條ノ適用ヲ制限セリ

第二百六十八條

(理由)本條ハ既成法典財產編第百七十六條ニ改正ヲ加ヘタルモノナリ左ニ其要點ヲ列敍セン

一、本條ノ適用ヲ別段ノ慣習ナキ場合ニ限リシハ既成法典ト大ニ異ナルカ如キ觀アルモ其實決シテ然ラス原文第三項ニハ地上權ハ通常賃借權ト同一ノ原因ニ由リテ消滅ス但所有者ノ爲ス解約申入ハ此限ニ在ラストシ而シテ賃借權消滅ノ規定ノ下ニ於テ解約申入ノ規定ハ地方慣習ナキトキニ非サレハ之ヲ適用セス(第百五十二條)ト曰ヘルヲ以テ既成法典ニ於テモ亦慣習ヲ先キニスルノ精神ナルハ論ヲ俟タス嘗テ既知スルコトヲ得ルナリ唯既成法典ニ於テハ慣習ノ效力ヲ解約申入ノ場合ニ限リシヲ本案ニ於テハ更ニ之ヲ擴張シテ地上權ノ存續期間ニ關スル全體ノ事ニ及ホシ差アルノミ而シテ之ヲ擴張シタル所以ハ此ノ如キ事ニ關シテハ各地ニ往々特別ナル慣習ノ存スルモノニシテ此慣習ヲ採用スルハ立法上頗ル得策ナルヲ以テナリ

二、本案ニ於テハ地上權者ハ何時ニテモ其權利ヲ拋棄シ得ルヲ原則トシ唯地代ヲ拂フヘキトキニ限リテ一年前ノ豫告又ハ一年分ノ地代ノ前拂ヲ必要トセリ是レ既成法典ニ於テ如何ナル場合ニ於テモ豫告又ハ前拂ヲ必要トセルモノト異ナル所ナリ抑權利ハ權利者ノ利益ナリ其任意ニ之ヲ拋棄シ得ルハ當然ノ事ニシテ殆ト說明ヲ要セス而シテ法律ニ於テ之ヲ制限スヘキハ唯其拋棄ニ因リテ他人ニ損害ヲ蒙ムノ恐レアル場合ニ限ルヘキモノトス地上權ハ地上權者ノ有スル權利ナリ宜シク其自由ニ之ヲ拋棄スルニ任セ其存續期間ノ確定セルト否トハ全ク之ヲ問ハサルコトトスヘシ然レトモ若シ存續期間ノ一定レ居リ其期間地上權者ヨリ土地ノ所有者ニ對シテ地代ヲ支拂フヘキ場合ニ於テ尙地上權者ノ隨意ニ其權利ヲ拋棄シ同時ニ合セテ其義務ヲモ拋棄シ得ルモノトスルトキハ之カ爲メニ土地ノ所有者ノ權利ヲ害スルコト頗ル大ナルヲ以テ此ノ如キ場合ニ限リテ地上權ヲ拋棄スルコトヲ得サルモノトシ其期間ノ定ナキ場合ニ於テモ或ハ豫告ヲ要スルコトトシ或ハ地代ノ前拂ヲナスヘキモノト

シタルナリ

三、本條第二項ハ原文ニナキ所ナレトモ我國ニハ必要ノ規定ナリト信シテ新ニ之ヲ挿入セリ其目的トスル所ハ地上權ノ存續期間ヲ定メサリシ場合ニ於テ地上權ヲ永久ノモノトセシテ相當ノ期間ヲ定メシムルニアリ地上權者カ其權利ヲ抛棄セサルニ於テハ地上權ハ永久ニ存續スヘキモノナリトスルノ例外國ニ頗ル多シ濠國ハ地上權ヲ以テ一種ノ土地所有權トセルニ因リ當然之ヲ永久ノモノトシ獨逸ニ於テハ地上權ハ實際ニ極メテ稀少ナルカ故ニ特ニ之ニ制限ヲ加フルノ要ナシトシテ同シク地上權ヲ永久ノモノトシ其他隣普ノ民法白國民法瑞挨等ノ如キモ亦之ト同種ノ規定ヲ爲セリ雖モ永久ノ地上權ハ殖ト土地ノ所有權ト異ナル所ナリ所有權ノ他ニ又一種ノ所有權ヲ生スルノ恐レアルヲ以テ公益上勉メテ此ノ如キ權利ノ發生ヲ妨ケ唯別段ノ契約若クハ慣習ノ存スル場合ニ限リテ之ヲ許スコトトシ其他ハ總テ適當ノ期間内ニ之ヲ限定スルヲ可ナリトス既成法典ハ建物ノアル場合ニハ地上權ハ建物ノ存立時期間繼續スヘキモノト規定セリ是レ既成法典ニ於テハ地上權ヲ以テ建物ノ所有權ト認メタルニヨレハナリ又其規定ノ結果トシテ地上權者ハ所有者ノ承諾ナクシテ大修繕ヲ爲スヲ得サルコトヽナリ從テ大小修繕ノ區域ニ關シテ屢爭ノ生スルコトアラン本案ハ既成法典ト異ナリテ地上權ヲ建物ノ所有權トセス唯工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メ土地ヲ使用スルノ權利トシタルヲ以テ建物ノ有無ニ拘ハラス地上權ノ存續期間ヲ一定シ得ルコトトナレリ（濠一二五〇獨二章九二七蒼國法一部二二章二四五ニハ建物倒ルルモ地上權消滅セサルコトヲ言ヘリ）既成法典ハ樹木ニ付テハ採伐スル時期又ハ其有用ナル最長大ニ至ル可キ時期ヲ以テ地上權ノ期限トセリ雖モ樹木ニハ採伐ヲ目的トスルモノト否サルモノトアリ之ヲ目的トセサル樹木ノ如キハ如何ニ長大トナルモ猥リニ强伐セシムヘキニアラス此規定ハ既成法典ノ採用セル「地上權ハ樹木ノ所有權ナリ」ト曰ヘル主義ヨリ見ルモ尙論理ノ貫徹セサル所アリ以上ノ如キ理由アルヲ以テ本案ハ既成法典ノ規定ヲ改メ裁判所ヲシテ工作物又ハ竹木ノ種類及ヒ狀況其他地上權設定ノ當時ノ事情ヲ斟酌シテ設定者ノ意思ニ尤モ近キモノヲ執リテ以テ地上權ノ存續期間ヲ定メシムルコトトセリ然リト雖モ若シ其大體ノ範圍ニ關シテ意モ定ムル所ナクンハ動モスレハ判官ノ專横ヲ來スノ恐レアルヲ以テ法律ニ於テ宜シク一定ノ標準ヲ與フヘキモノトス而シテ今我國從來ノ慣例ヲ調査スルニ頗ル茫漠トシテ明瞭ナラスト雖モ多クハ十年乃至三十年ヲ以テ限トスルモノノ如ク（民事慣例類集五六二、五八一）又和蘭民法ノ規定ニ據ルモ土地ノ所有者ハ三十年ノ後一年前ノ豫告ヲ以テ地上權ヲ消滅セシムルコトヲ得ルモノトシ其他三十年ヲ以テ限トスルノ例多シト雖モ石造煉瓦造等ノ建物ハ假令三十年ヲ經ルモ尙依然トシテ有用ニ存シ强ヒテ之ヲ毀壞セシムルハ經濟上極メテ不利益ノ事タルカ故ニ苟モ設定者ノ意思カ之ヲ三十年以下ニ限定スルニ在リタル證憑ナキ以上ハ之ヨリ長ク地上權ヲ存續セシムルヲ至當トス而シテ又忽チ毀壞ス可キ家屋若クハ直ニ採伐ス可キ樹木ヲ所有スル爲メニハ十年ヲ以テ足レリトスルカ故ニ之カ爲メニ存スル地上權ヲ十年ニシテ消滅スルモノト定ムルモ敢テ短キニ失スルノ恐ナキヲ以テ本案ニ於テハ最短期ハ從來ノ慣習ニ因リテ之ヲ十年トシ最長期ハ既成法典ノ永借權ノ規定

及ヒ木案ノ永小作權ノ場合ト等シク之ヲ五十年トシ判官ヲシテ此兩極點内ニ於テ適當ノ期間ヲ定メシムルコトヲシタリ

四、原文第三項ニハ此他地上權ハ通常ノ賃借權ト同一ノ原因ニ由リテ消滅スト云ヘトモ賃借權ノ下ニ規定セル消滅方法ハ所謂解約申入ニ關スル特別規定ノ外ハ總テ當然言フヲ待タサル所ナルニ原文ニ於テ解約申入ニ付テハ此限ニ在ラスト云ヘルヲ以テ会木項ノ必要ヲ見サルニ至リ從テ之ヲ削除セリ

第二百六十九條

（理由）既成法典財產編第百七十七條ニハ地上權者カ其建物又ハ樹木ヲ賣フントスルトキハ土地ノ所有者ハ之ニ對シテ先買權ヲ有ストレ文字ノ上ヨリ觀察スルトキハ頗ル土地ノ所有者ヲ偏愛スルモノノ如クナルモ其實却テ之ヲ保護スルノ途ヲ盡ササルモノナリ所有者ノ先買權ヲ有スルハ唯地上權者カ其建物又ハ樹木ヲ賣フントスルノ場合ニ限レルヲ以テ地上權者ニシテ苟モ之ヲ賣ルヲ欲セス或ハ家屋ヲ毀壞シテ他ニ之ヲ運搬シ或ハ樹木ヲ搖去シテ他ノ地ニ之ヲ移植セントスル ニ當リテハ土地ノ所有者ハ之ヲ如何トモスルコトヲ得サルヘシ甚シキニ至リテハ單ニ土地ノ所有者ニ之ヲ賣ルヲ欲セストノ理由ニ因リテ其建物又ハ樹木ヲ收去スルモ尙所有者ハ法律ノ保護ヲ受クルヲ得サルモノトナル木案ハ此ノ如キ場合ニ應スル爲メニ地上權消滅ノ時ニ土地ノ所有者ヨリ時價ヲ提供シテ之ヲ買取ルヘキ旨ヲ通知シ來ルトキハ地上權者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ストシ以テ土地ノ所有者ニ工作物若クハ竹木ヲ買取ルノ權利ヲ與ヘタリ而シテ原則トシテハ地上權者ハ其工作物及ヒ竹木ヲ收去スルコトヲ得ルモノトシ且正當ノ理由アルニ於テハ土地ノ所有者ヨリ如何ニ買取ヲ請求シ來ルモ尙之ヲ拒絶シ得ルモノトシタルヲ以テ地上權者ニ對シテモ決シテ酷ナルノ規定ニアラス即チ先買權ノ如キ名ヲ採ラスシテ而モ能ク其實ヲ收メ當事者ノ間ニ全ク衡平ヲ得タルモノト言フ可シ外國ニハ地上權消滅ノ際ニ建物樹木等ハ當然土地ノ所有者ノ有ニ歸シ而シテ所有者ハ之ニ對シテ償金ヲ拂フ可キモノトスルノ例多シト雖モ是レ啻ニ我國從來ノ慣習ニ反スルノミナラス地上權者ニ對シテ頗ル苛酷ノ規定ニシテ土地所有者ニアリテモ亦屢迷惑ノコトナキニシモアラサルヲ以テ木案ニ於テハ之ヲ採用セス普魯西國法（一部二二章二四三）ハ之ニ反シ地上權者ハ所有者ノ如ク其建物樹木等ヲ處分スルコトヲ得ト謂ヒテ暗ニ地上權者ハ常ニ之ヲ收去シ得ルモノト認メ土地ノ所有者ニ買取ノ權利ナキモノトセルカ如シト雖モ是レ國家ノ經濟上頗ル不利益ノ規定ニシテ他ノ占有法用等ノ規定（一九六、二四二）ノ主義ト相合セサル所ナルヲ以テ此レ亦木案ニ採用セス